

みなと物語



空を走る地下鉄



車両のつり上げ
クレーンカーによりつり上げられ、車両が搬入されました。

市電は、明治36(1903)年に築港一花園橋(現在の大阪港～九条新道交差点)間に開通してから、区民の足として大いに利用されました。戦後の混乱期にいち早く復興し、再び区民にとってかけがえのない交通機関として活躍しました。しかし昭和30年代になり、自動車交通による道路混雑が問題になると、路面を大きく使った市電は交通渋滞の原因とされ、市電に代わる主要交通機関として地下鉄の建設が急速にすすめられていきました。

昭和36(1961)年12月、大阪港と弁天町を結ぶ「地下鉄第4号線(現在の中央線)」が開通しました。大阪港

一弁天町間は、地盤沈下の激しいところで何度も高潮の被害を受けていたため、初めての高架式地下鉄になりました。そのため「空を走る地下鉄」として当時話題を呼びました。高さ4.6m～11.4mの高架路線を5分で走りぬけ、国鉄(現在のJR)弁天町駅と連絡していたため、大阪港と都心部との移動時間はとても短縮されました。当時の乗車料金は大人15円、小人10円、通勤定期券は1か月550円でした。昭和39(1964)年10月には弁天町一本町間も開通し、ますます便利になりました。

